

本日の案件は「新型コロナウイルス感染症への対応について」でございます。

市内・道内の新規陽性者につきましては、新年が明けてから一時的に増加したものの、その後は減少傾向に転じております。市立病院におきましても、直近1週間（1月15日～21日）の感染症病床利用率は63%で、1日当たりの平均入院患者数は今週から減少傾向となり、25日 水曜日時点の入院患者は8名となっております。

1月16日からは、小・中学校の新学期がスタートしております。行動制限がない学校生活や冬のイベント開催など、人との接触機会の増加が予想されます。

また、全国的に季節性インフルエンザとの同時流行が懸念されるため、市民の皆様には、より一層の基本的な感染防止策の徹底をお願いいたします。

オミクロン株対応ワクチンの追加接種の状況につきましては、1月20日現在、全市民に対する推計接種率は39.2%となっております。

臨時接種の期限は令和5年3月31日までとなりますので、ワクチン接種を希望される方は、早めの予約、接種をお願いいたします。

地域経済対策の進捗状況につきましては資料1のとおりですが、事業継続支援金2022（第2弾）につきましては、申請期限が2月28日までとなっておりますので、該当する事業者は、早目の申請をお願いいたします。

現在、国におきましては、新型コロナウイルスの感染法上の見直しに向け、ワクチン接種のあり方などの議論が進められております。本市といたしましては、今後の新たな変異株の発生には十分に警戒しつつ、スピーディな対応ができるよう国の検討状況を注視してまいります。

案件にはございませんが、「とまこまい港まつり納涼花火大会の主催者変更」につきまして、苫小牧港まつり実行委員長として、ご報告させていただきます。

納涼花火大会は、昭和25年の「苫小牧観光まつり」から始まり、「とまこまい港まつり」に改称された後も毎年開催されてきた、まつりに彩を添える歴史あるイベントの1つでございます。

これまで長年にわたり、北海道新聞社に納涼花火大会を主催していただきましたが、北海道新聞社 苫小牧支社の業務体制の変更により、来年度以降の継続が難しいとの相談をいただきました。

実行委員会では、納涼花火大会は多くの市民が楽しみにしているイベントであり、今後も継続したいとの思いから、「苫小牧民報社」と「とまこまい百年花火実行委員会」に相談させていただいたところ快諾をいただき、来年度から納涼花火大会は、「苫小牧民報社」と「とまこまい百年花火実行委員会」の共催により開催されることとなりました。

これまで納涼花火大会を主催していただいた北海道新聞社、そして今後、開催していただく「苫小牧民報社」「とまこまい百年花火実行委員会」の皆さまに感謝申し上げます、報告とさせていただきます。

案件は以上となります。質問があればお受けいたします。